

先人たちの声

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

社会福祉法人八健会 地域密着型特別養護老人ホーム
ひびきのもり
 入所29名
 北九州市若松区深町1-15-8
 平成20年7月に開設。介護サービスだけではなく、文化交流やイベントを通じての地域活性化や雇用の拡大による社会貢献に取り組んでいる。



施設長
高野さん

北九州モデル導入の主な取組内容

- **書類作成**
 【取組】 各フロアへのWi-Fi増設、記録システム導入
 【効果】 書類作成時間▲40%（書類作成による残業削減）
- **入浴業務**
 【取組】 1日当たりの入浴者数の見直し（入浴日の分散）
 【効果】 洗濯回数の半減、個別ケアの拡大
- **周辺業務（備品発注・運搬）**
 【取組】 ケア方法の見直し、業者の協力
 【効果】 ケア用品の発注とリネン運搬の負担軽減 など



北九州モデル導入の流れ
(センターによる伴走支援)

	R5	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6	1月	2月	3月
準備 キックオフミーティングと今後の流れの共有	■											
調査 センターによる業務量調査と結果報告会	■	■										
検討 課題抽出と解決策立案に向けた意見交換		■	■									
実践 取組の実施/センターとの意見交換/振り返り			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

職員の負担軽減に向けて、少しでも業務の無駄を減らそうと業務改善を図ろうとしていました。中でも記録の効率化を目指していましたが、自分たちだけではスムーズに進まない状況にありました。そんな折、北九州モデルの話があり、**体系的に業務改善の取組に臨むことができる**のではないかと思います、参加することにしました。

4 今回の取組で役に立ったことは？

職員が同じ方向で業務改善を進めていけたことが良かったです。それにより、より一層**チームワークが強くなった**と感じました。また、**心理的安全性も高まった**ことで、業務改善に対する職員同士の意見も増えました。そして、記録業務の改善が図られたことで、ゆとりが生まれ、更なる**ケアの質向上への意識も高まった**と思います。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

規模として全職員へ情報が伝わりやすい施設であり、施設長発信で「**北九州モデルに取り組む目的**」「**これからどのような流れで取組が進んでいくのか**」を資料を交えて回覧し、伝えていきました。また、業務改善に対して**前向きな職員を中心に**、その都度、**現場の不安を払拭するような声かけやサポート**をしていくことで、合意形成を図ることができました。

5 新たな取組など、今後の方針は？

今回記録システムを導入しましたが、一部転記が生じている記録も存在しています。そこで今後は更なる効率化に向けて、**記録の完全なペーパーレス化**を図ろうと考えています。また、見守り業務の質の向上と負担軽減に向けた**見守り支援機器の導入**も検討しています。そして生まれたゆとりを基に**ノーリフティングケアの推進**を図る予定です。

3 取組にあたり壁になったことは？

主な取組の「記録のデジタル化」に対して、長年手書きで慣れてしまっている職員から不安の声や抵抗感を示す様子が見られました。そこでデジタル化を**推進する意思のある職員を中心に**そのメリットやどのように記録するようになるか具体的な内容を示し、導入後は**得意な職員を中心にフォローし合う**ことで不安を払拭できました。

6 これから取り組む施設へのアドバイスを！

新しいことに挑むことは不安が大きいかと思いますが、**やってみて合わなければ簡単に元に戻せます**し、やってみないと分からないことも多いかと思いますが、そして、業務改善だけではなく、取り組むこと自体によって**職員の意識改革やチームワーク強化にもつながります**ので、ぜひ、チャレンジしていただければと思います。